

# 横芝の碑

へその二十二

## 機転の地蔵後日物語

旧上堺の新島道貫と屋形南の境に建っている地蔵様の祠については「機転の地蔵」として本紙第四号で紹介したことがあります。最近この地蔵様の祠を補修したところ、胴体だけの石仏が見付かったという話を聞きましたので、その取材に出掛けましたが、近路を選ぼうとして方角を誤り、予定していなかった乃木大将揮毫の碑を取材してしまつた。という経緯は前号で御案内申し上げた通りです。

ところで、この地蔵様については「仇討の旅に出た武士が、或道端で病に苦しむ武士を助けたところ、その武士が尋ねる仇であった助けられた武士は、廻る因果に驚きながらも、切合いは避けようとしたが、誤って返り討にしてしまった。予期しなかつた結果、遂に武士を捨てた。里人は返り討になつた武士のため地蔵様を建立して後生を葬つてやった」という物語りは既に御存知のことと思ひます。さて、この物語りには後日談があるのです。折角建てたお地蔵様が、或日突然姿を消してしまい、数ヶ月経つた。丁度返り討になつた武士の命日の頂、胴体だけのお

姿になつて元の場所に戻つておられたのです。「誰かの悪戯であらう、勿体ないことだ」というので相談して又新しいお地蔵様を建立したところ、その晩の中に新しいお地蔵様の姿が消えて、胴体だけのお地蔵様が建っていました。人々は「これはきつと胴体だけのお地蔵様には魂が通つているのだ

しかし、明治、大正、昭和と文化が進むにつれて、参詣の人数も減つてしまいました。それでも「木や竹で造つた刀を奉納してお祈りする」と、困つている災難や問題が好転する」という風習だけは残つていました。その御本尊については次第に忘れられ、中には祠の中に一緒に祭られていた稲荷様の靈験であると思つている人もある位でした。

終戦後世の中が荒廃した頃から再び転氣の功徳を願う人が増えてきました。そのうちに匝瑳方面から訪れた人や、お嫁にきた老母等



このままお祭りしておいた方が良い」というのでそのままの姿で安置申上げていたということです。その後、この不思議な物語りとお姿の地蔵様は「人々の運命を転じて侍を迎える功徳がある。」と云ひ伝えられ、一時は参詣の人並ぶ列を造つたこともあつたそうです。

が「昔、野田の田圃の中にお地蔵様の頭だけが祭られていた。上堺の方にその胴体だけのお地蔵様が祭られていて、一日の中に両方へお詣りすると願ひごとが叶えられ」といふ伝えがある。という噂をしていたということから、俄かに転氣地蔵の靈験がクローズアップ

してきました。地元の人々は「このお地蔵様は私達の先祖が建立したもので、このままでおくのは勿体ない、第一御先祖様に申訳ない」と誰からともなく祠改修の話が持ち上つたのだそうです。

補修の段取りとなつて祠の中を調べて見ますと、三体の地蔵様が祭られていて、その中の一体は、噂の通り胴体だけのお姿でしたので、吃驚すると共に、昔からの言伝えが人々の話題として甦り「災禍を好転させたい、機会を掴みたい」という祈願をする人が増えていくという話です。

◎写真は、祠の補修中、一時外にお出ましを願つた胴体だけの地蔵

様(左側)と、信者奉納の大願成就の碑で、地蔵様の右側には、迫境信忠、左側には、上部が欠けていますが、×巳五月九日新堀村と刻まれています。現在、この地蔵様は他の二体の地蔵様と共に綺麗に補修された祠の中に祭られています。

手をつなぎ築こう  
非行のない明るい社会  
(社会を明るくする運動  
実施委員会)

